

みんなで考えよう！ ものづくり勉強会
木のまちものづくり

NEWS LETTER

第6号 2007/1/9

発行：ものづくり実行委員会
発行責任者：今井 謙人
事務局：〒519-3405 三重県北牟婁郡紀北町
海山1-6-2655 森林組合おわせ木内
tel (0597)35-0877 fax (0597)35-0890

今回のニュースレターは、平成十八年度中2回開催した「ものづくり勉強会」を中心に纏めました。今年度の勉強会は、じっくりとものを作り込む事をコンセプトに企画しました。懐かしい雰囲気漂う「中学校の技術室」での地味な事業ですが、しみじみとした中に凛とした緊張感のある勉強会となりました。ご尽力いただきました皆様に深くお礼申し上げます。



平成十八年度
ものづくり勉強会
洗練された「ものづくり」への昇華
[2・3・4・5面]

もくじ Contents

Topics	ものづくり勉強会（平成18年度第1回）	2~3
Topics	ものづくり勉強会（平成18年度第2回）	4~5
News	アート×クラフトプロジェクト開催決定!!	6



News アート×クラフトプロジェクト'07開催決定!!

企画① 銀座展示会

「いつかは、東京で専門分科会の展示会を」と考えていました。この度、田中一幸教授のご尽力のもと東京藝術大学学長裁量経費の採択を受け、専門分科会の作家と芸大の先生・学生達とのコラボする展示会を銀座のギャラリーで開催いたします。

【開催期間】

・平成十九年二月六(火)～十一(日)

【開催場所】

・新井画廊
東京都中央区銀座7-10-8
第5太陽ビル1F

【出展予定者】

ものづくり専門分科会
・池田比早子(田原屋)
・世古効史(ぬし熊)
・竹内健悟(工房木組)
・中村早苗(Wood Luck)
・畑中昇(家具工房はたなか)
・畑中良美(家具工房はたなか)
・浜野匡宏(スケール)

東京藝術大学美術学部工芸科

・木工芸研究室
・漆芸研究室
・鍍金研究室
・染織研究室

企画②

紀北町クラフトイベント

昨年は、大白公園に屋外展示物を集中しましたが、今年度は町内3カ所に設置する事になりました。又、町内外の方々にも制作にご参加いただけるよう計画しています。豊大と地域の方々との交流から新たな展開が！

【展示期間】

・平成十九年三月四(日)～十一(日)

【展示場所】

・紀北町中央公民館
(こども達のワークショップ)
・マンボウ道の駅
・小従木市場跡前の畑

その他のイベント

企画③

こども達のワークショップ(いきいき子ども学園)
・平成十九年二月二十四(土)～二十五(日)

企画④

シンポジウム

・平成十九年三月四(日)
・紀北町中央公民館

企画⑤

植樹
・平成十九年三月四(日)

※詳細は後日ポスターなどで告知致します。



緑の募金

本誌は「緑と水の森林基金」助成事業の協力のもと、発行致しております。

お問い合わせ

皆様のご意見・ご感想や、ものづくり実行委員会へのお問い合わせ、ものづくり専門分科会への入会など、ドシドシお寄せ下さい。

ものづくり実行委員会

事務局：〒519-3405 三重県北牟婁郡紀北町
海山1-6-2655 森林組合おわせ木内
tel (0597)35-0877 fax (0597)35-0890
E-mail mono@owase.or.jp



「どんな目的意識でものを作るのが大事。一などが印象に残りました。」
 今回は完成まで辛らなかつたため、各自でコースターを完成させて、次回の勉強会で発表することとなり、どんな形でできあがってくるのか、非常に楽しみです。

「失敗してもいいから偶然から生まれる形もあっていい。」
 「秩序ではなく不秩序のラインが手仕上げの面白さ。」

作業再開からおおよそ一時間程、まだ完成には至っていないものの、おおよその形が表れたところで、田中教授による各作品の講評。

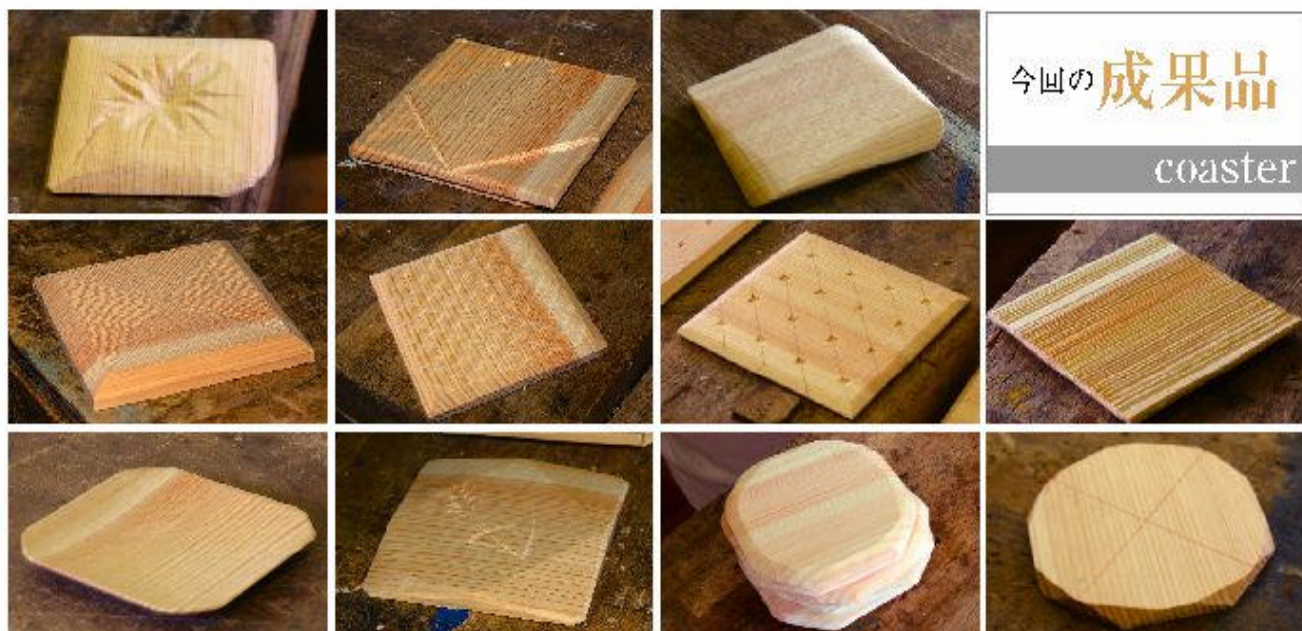
「失敗してもいいから偶然から生まれる形もあっていい。」
 「秩序ではなく不秩序のラインが手仕上げの面白さ。」

「失敗してもいいから偶然から生まれる形もあっていい。」
 「秩序ではなく不秩序のラインが手仕上げの面白さ。」

「失敗してもいいから偶然から生まれる形もあっていい。」
 「秩序ではなく不秩序のラインが手仕上げの面白さ。」

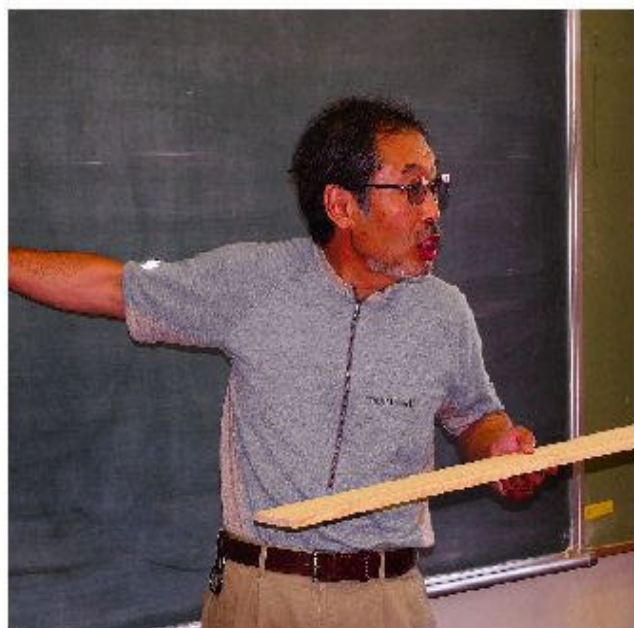
今回の成果品

coaster



田中教授の総括

本年九月十日（日）、会場は湘南中学校工作室をお借りしました。参加者は10名。一枚の小さな板で作れるコースター、トレイなど卓上で使えるものを条件としました。素朴な道具で板を削ることによって、どのような表情が生まれるのか。既成の概念にとらわれない発見や喜びを体験できるか、心地よくいい感じの作品になるかが重要なテーマでしたが、刃物に慣れていないとか、日常機械加工でほとんど成形しているとかの制約から、材料に対して自由な発想には至りませんでした。常に思念し材料と道具に触れ、くりかえし試みるしかありません。宮本武蔵の言葉、「朝錢夕練すべし」と。



平成十八年度 第二回ものづくり勉強会

【開催日】
平成十八年十月十五日

【開催場所】
紀北町海山区札賀
津西中学校内技術室

【コーディネーター】
東京藝術大学美術学部工芸科助二
宮澤美香

東京藝術大学美術学部工芸科助手 (木工芸)
園部元徳

【参加者】
専修分科会
・ 畑中辰美 (家具工房はたなか)
・ 世古効史 (ぬい熊)
・ 口村三三 (Wood Luck)
・ 教台園条 氏
・ 正岡 (潮南中学校校長)



より高い完成度を目指して…



デンスカッション風景

前回勉強会より、およそ一ヶ月後の平成十八年一月一五日、前回参加してくださった方を中心に声をかけ、集まって頂いた四名で、平成十八年度第二回ものづくり勉強会「を紀北町海山区札賀 潮南中学校大技術室にて開催致しました。

今回の勉強会で依頼したコースターをブラッシュアップし、作品に近づけたものや、最新制作した作品を持ち寄って頂き、東京藝術大学美術学部工芸科の宮澤美香助二、園部秀徳助手をコーディネーターにお招きして、デンスカッションしながら、作品の持つ意味や意義をより明確にする勉強会を行いました。

当日の様子

ひとつの机をコーディネーターの宮澤助手、園部助手、参加された四名が州むように回り、デンスカッションするのにはちょうどいい近い距離のなかで始まった今回の勉強会。家具二房はたなかの畑中辰美さんを最初に、潮南中学校声上正岡校長、Wood Luckの中村早苗さん、ぬし熊の寸古効史さんの順に作品の解説をしていきました。デンスカッションの内容は作品だけでなくとまらり、木目を出す方法や、道具選び方など多岐にわたってお話がありました。一ものづくりをする人間同士で様々な角度からの議論、凝縮された中身の濃いものとなりました。



畑中辰美さんの作品



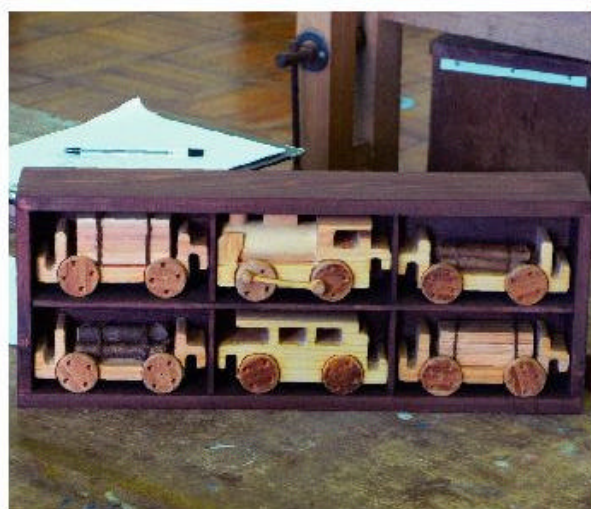
中村早苗さんの作品



宮田真さんの作品



中村早苗さんの作品



中村早苗さんの作品（参考）

今回、勉強会に参加させていただいて、皆さんにいろいろはなしたわけですが、それは常に自分自身にあるいは自分の作品にむかってやってきた事そのものです。そう言う事が直接皆さんのお役にたつのかどうかはすぐには答えの出にくい事かと思えます。でもいろいろ言ったなかの「白らが楽しい、ドキドキする。」は大前提であり大切にしたいものです。

園部助手の感想

「これ」と言う正解がなく、抽象的に感じる事も話させていただきました。日頃ものづくりに携わっていらっしゃる皆さんの豊かな探究心のおかげで、このような会を通じて何かしら思いを共有できたのではないかと感じています。ありがとうございます。

賀澤助手の感想



平成十八年度 第1回ものづくり勉強会

【開催日】
平成十八年九月十日

【開催場所】
紀北町海山区相賀
潮南中学校内技術室

【講師】
東京藝術大学美術学部工芸科教授（木工芸）
田中一幸

【参加者】
専門分科会
・畑中良美（家具工房はたなか）
・竹内健悟（木組）
・中村早苗（Wood Luck）
・浜野匡宏（スケール）
三正の作家
・須賀忍
教育関係者
・宮田真（潮南中学校長）
・山下高弘（潮南中学校教員）
・大久保和典（三船中学校教員）
・濱地成郎（尾鷲中学校教員）
・川端裕也（尾鷲中学校教員）

板にいのちを

まだ雪の残る平成十八年九月十日、ものづくり専門分科会、三重県で活躍されている家具作家さん、教育関係の方々から参加者を募り、平成十八年度第一回ものづくり勉強会」を紀北町海山区相賀 潮南中学校内技術室にて開催致しました。

「板にいのちを」というテーマの元、東京藝術大学美術学部工芸科（木工芸）の田中一幸教授を講師にお招きして、無機質な木辺にどのように表情をつけ、自分の想いを作品に載せることができるかを、90×90ミリ程度の木辺でコースターを作製する実技を通して学んで頂こうという主旨で行いました今回の勉強会。参加者の真剣に取り組み姿が印象的な勉強会となりました。



当日の様子



作業風景

ケーブルテレビや新聞取材も来ていたせいか、少し緊張した空気の流れる中、勉強会はスタートしました。講師の田中教授がまずは木の特性などを交えながら、板に「いのち」「想い」を込めてものづくりする事を黒板を使いながら説明。わざと木目に反してカンナを削る。角をかけさすことで、新しい角が生まれる。物自身だけではなく、そのとりまく環境も大切だというコメントが印象的でした。

ヒノキ板を90×90ミリにカットしたのち、いよいよ各自が考えるコースターづくりに突入。皆さん作業に入ると、たちまち真剣な表情に変わり、使い慣れた道具で器用に小口や表面に表情を生みだしていきます。